

令和7年度 盛岡市教育研究所 第60回研究発表大会

令和8年1月6日(木)都南公民館

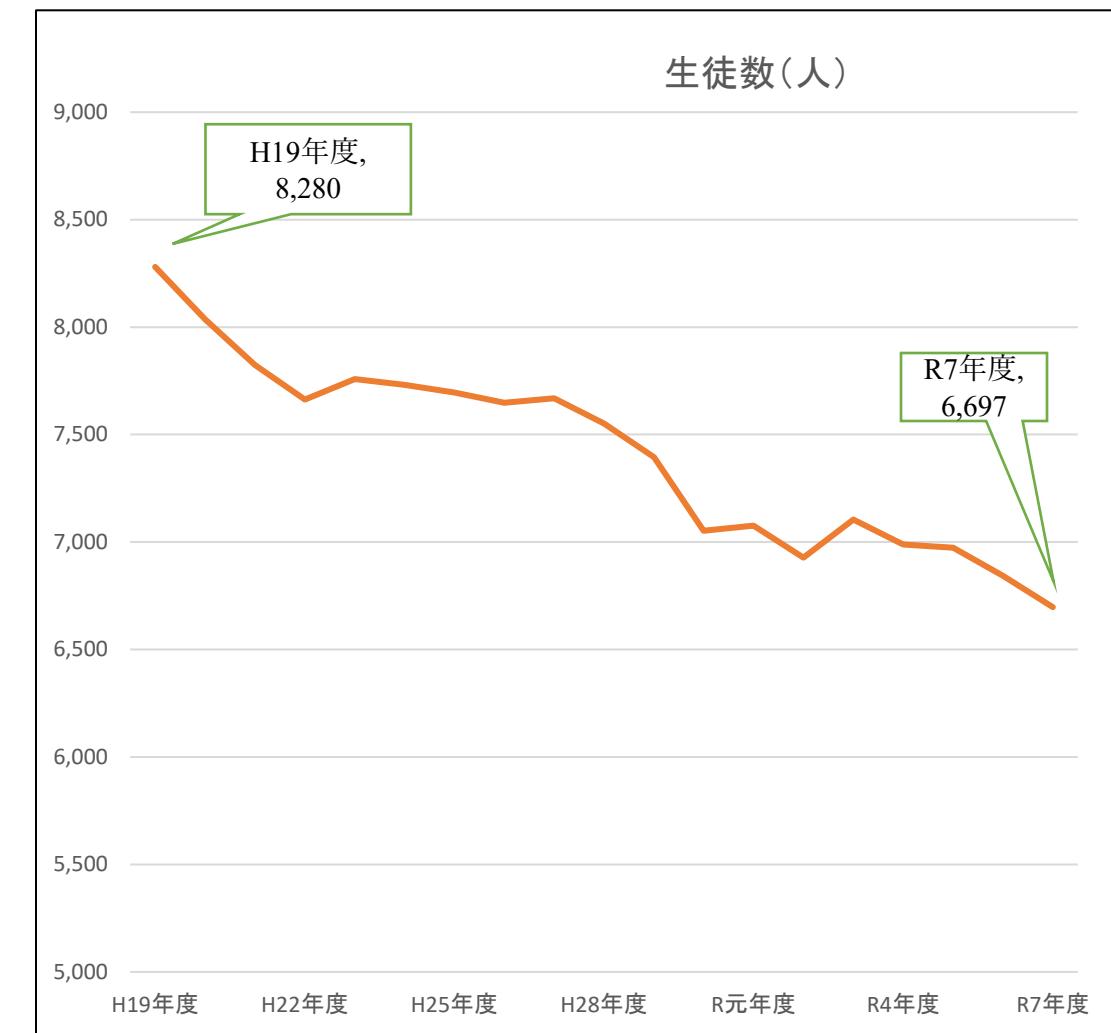
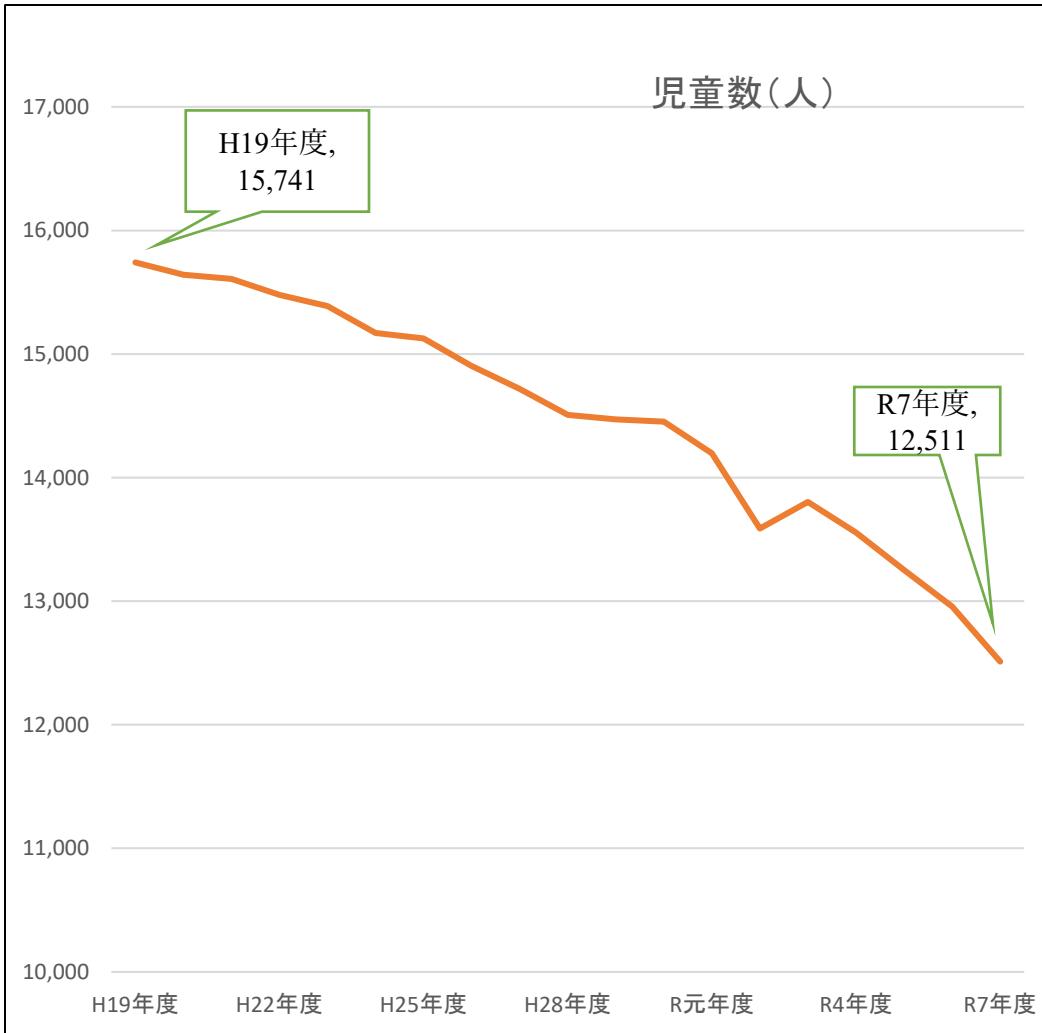
研究主題

小中学校における中学校区内の特別支援
学級間の連携・交流とその効果について
－特別支援学級担任の研修の充実を目指して－

盛岡市教育研究所
専門研究員 杉本 光生

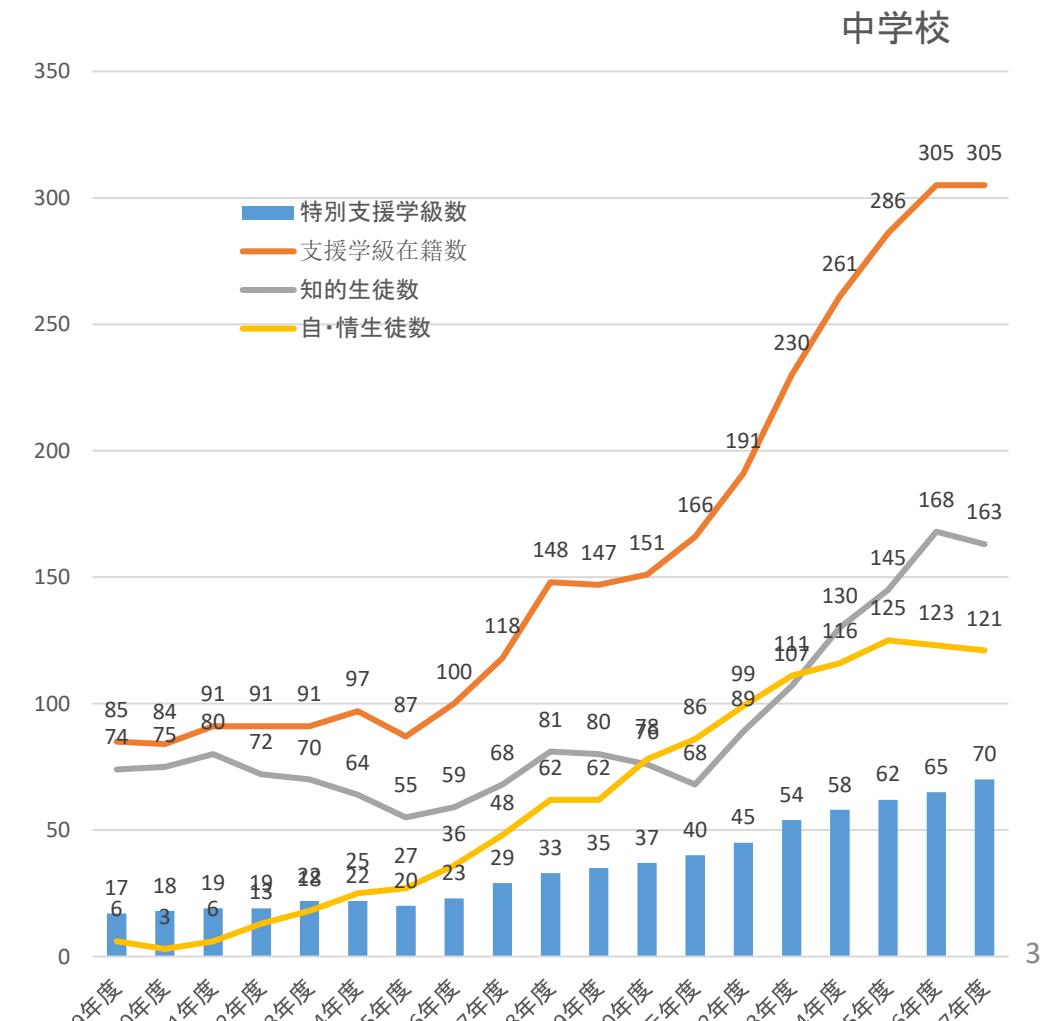
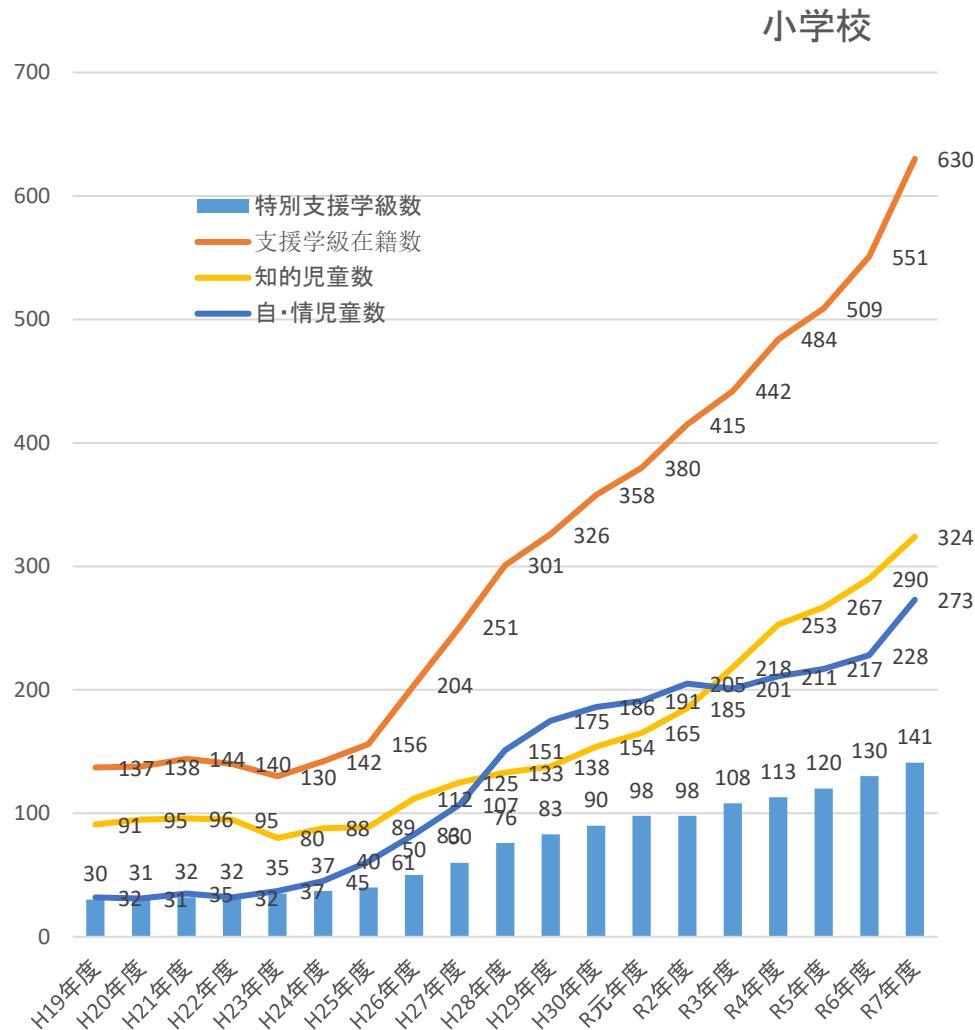
主題設定の理由

盛岡市の児童生徒数の推移(H19～R7)



主題設定の理由

盛岡市の特別支援学級数・在籍数(H19～R7) 知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級の在籍数の推移



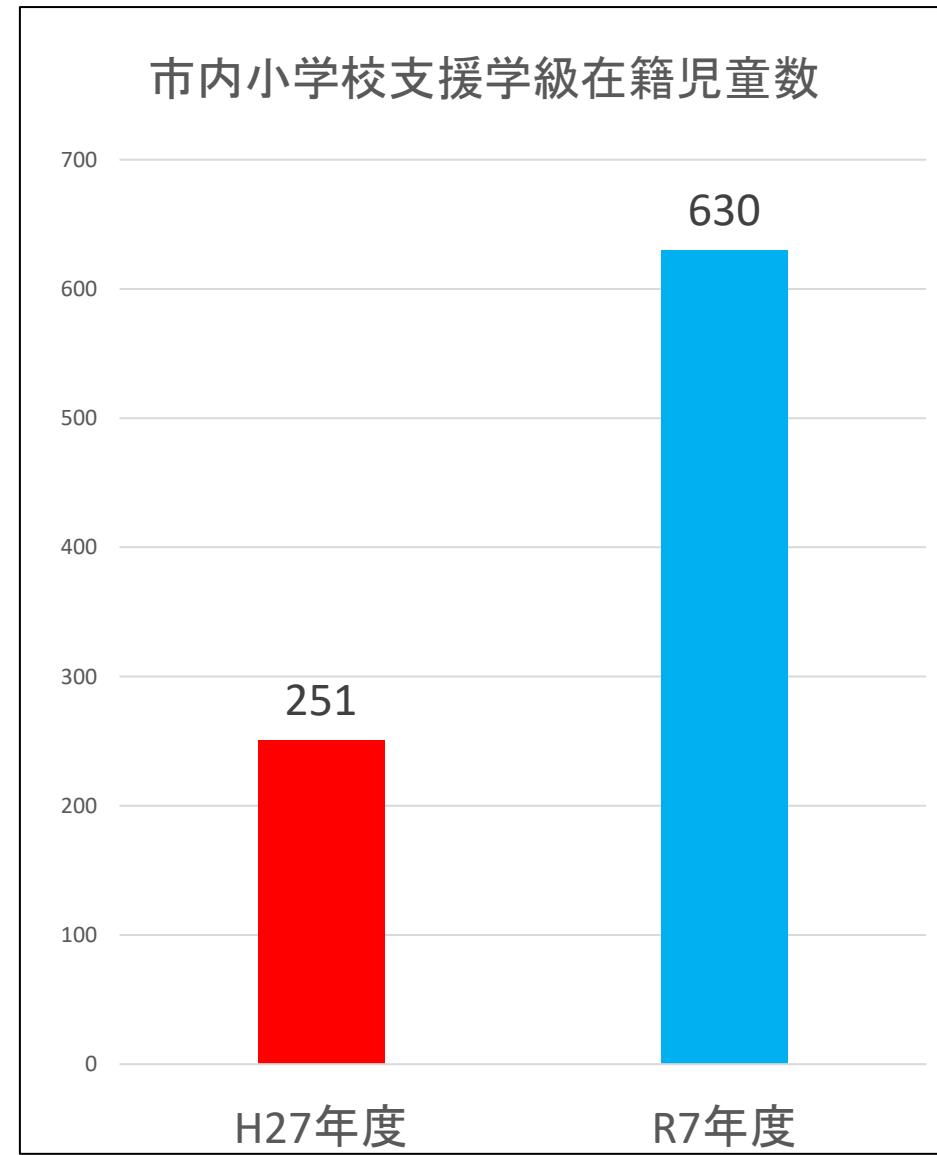
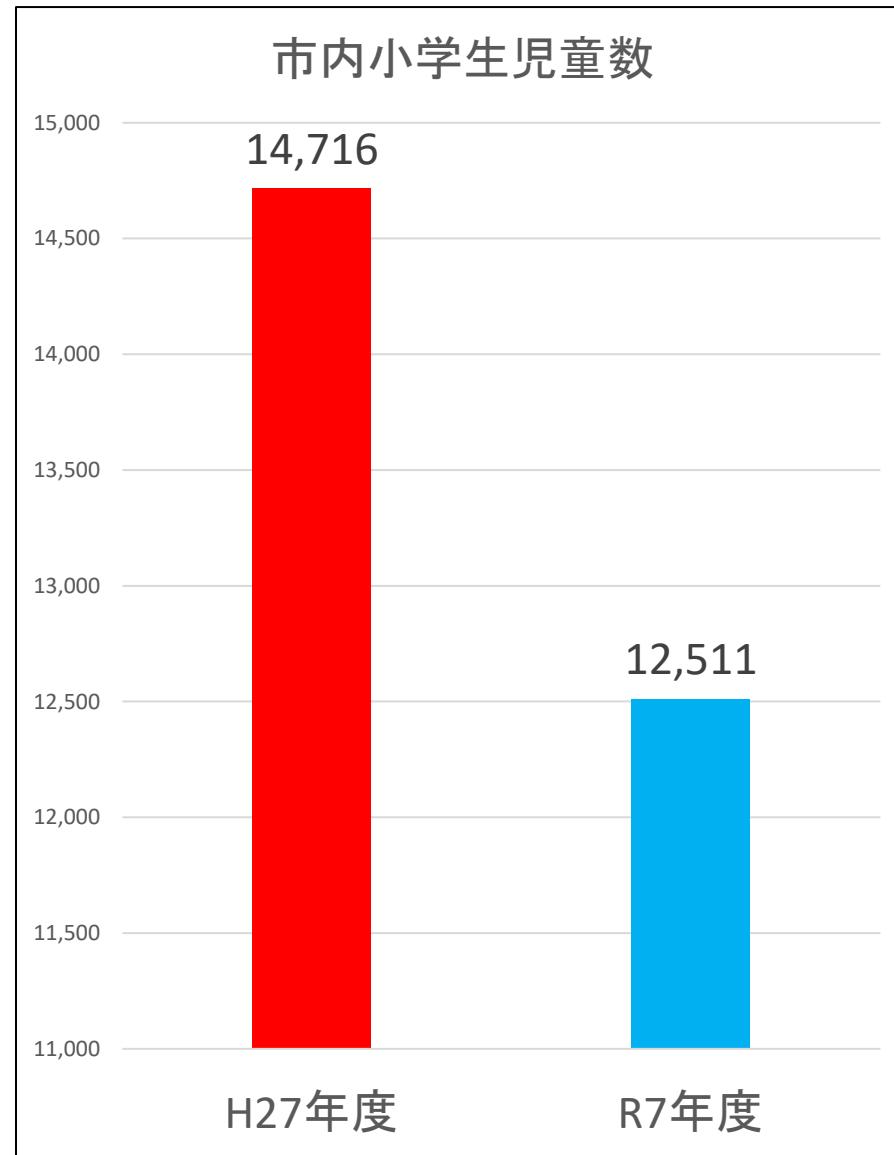
◎研究の方法

- 1 特別支援学級の在籍児童生徒の現状と特別支援学級担任の経験年数等の現状を把握する
- 2 中学校区の特別支援学級間の連携・交流活動の状況を調査し、連携・交流活動の効果をまとめる
- 3 連携・交流活動の留意点をまとめ、段階的推進モデルを提示する

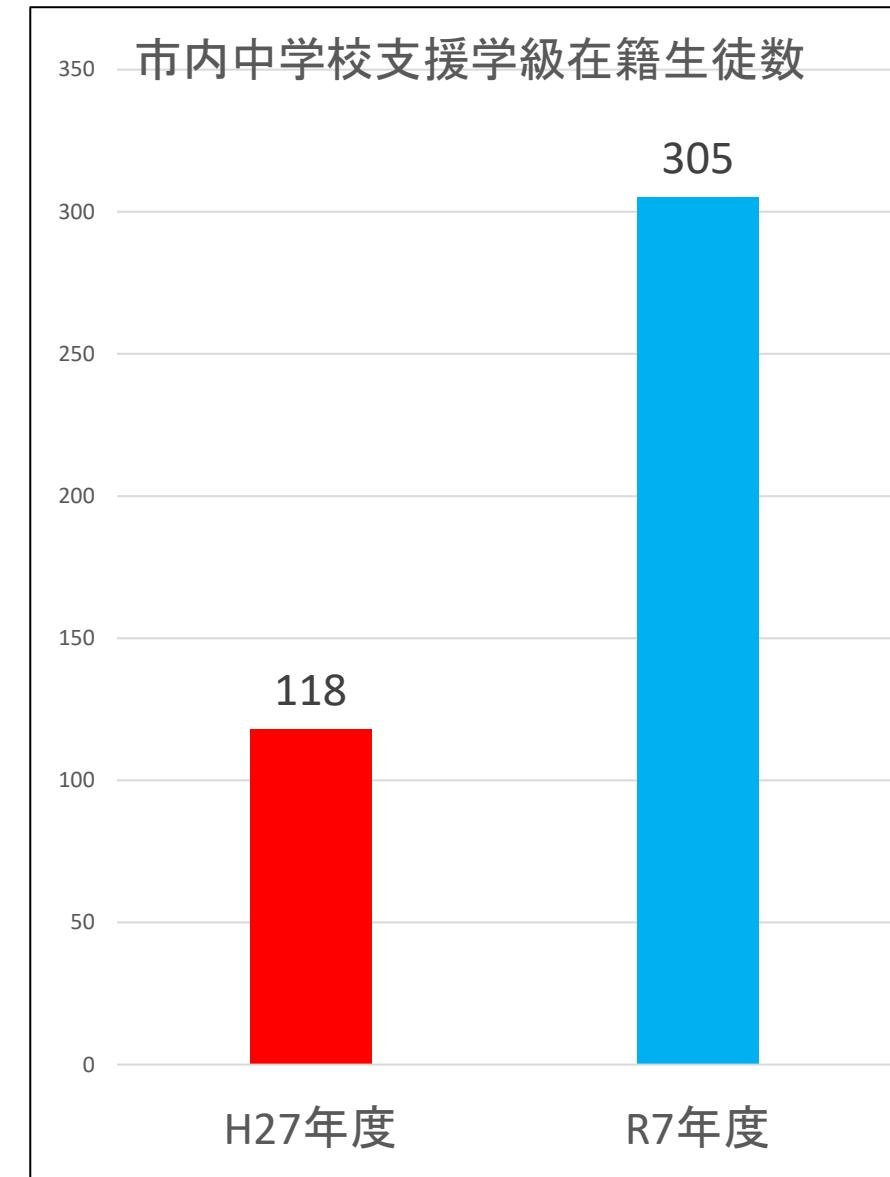
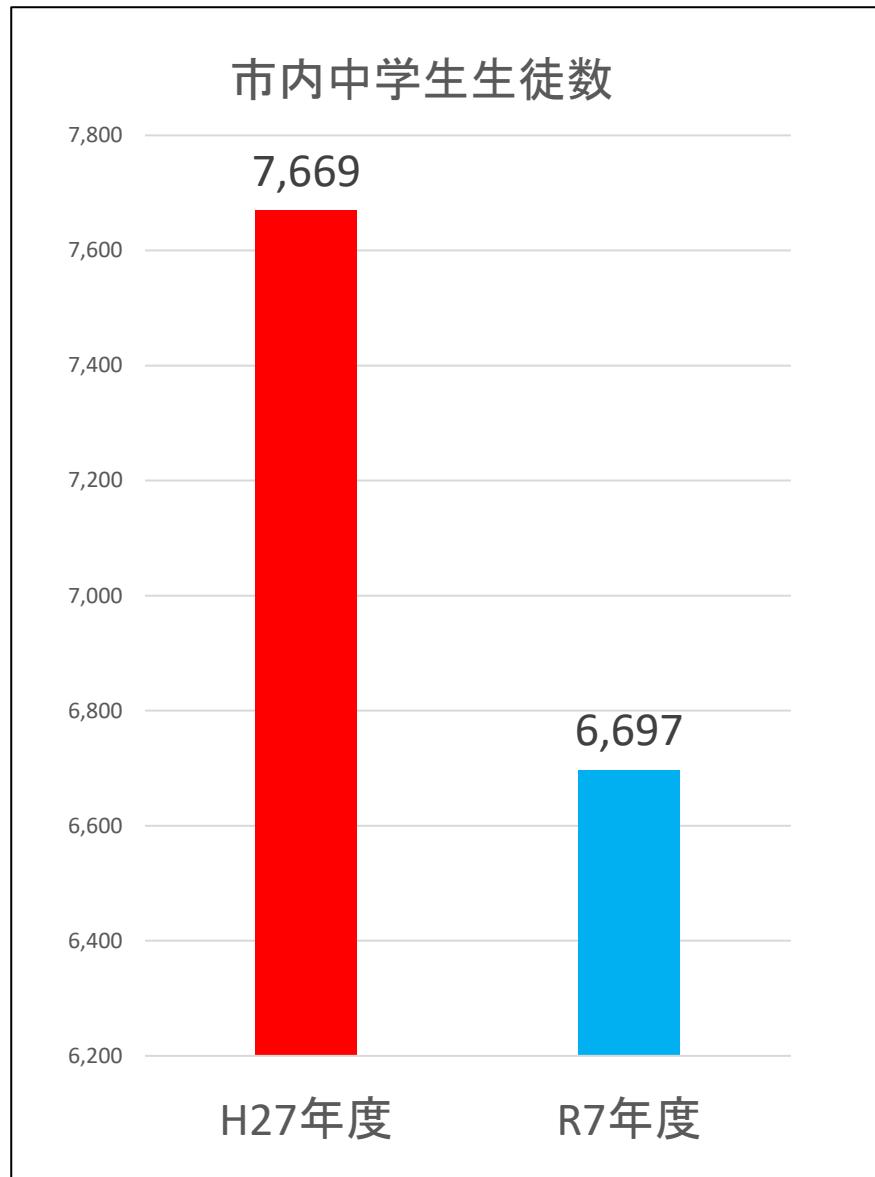
◎研究の内容

- 1 盛岡市内の特別支援学級等の状況
- 2 現状からみえる連携・交流活動の意義
- 3 盛岡市内の連携・交流活動の取組
 - (1)連携・交流活動の新規の取組(見前中・見前南中学校区)
 - (2)連携・交流活動の復活への取組(松園中・北松園中学校区)
 - (3)事例紹介(厨川中学校区、米内中学校区、巻堀中学校区)
- 4 連携・交流活動の効果
- 5 中学校区単位での段階的推進モデルの提示

全児童数と特別支援学級在籍児童数(H27とR7の比較)



全生徒数と特別支援学級在籍生徒数(H27とR7の比較)



大きな変化

○児童・生徒数の減少

- ・特別支援学級の増加
- ・特別支援在籍児童数の増加

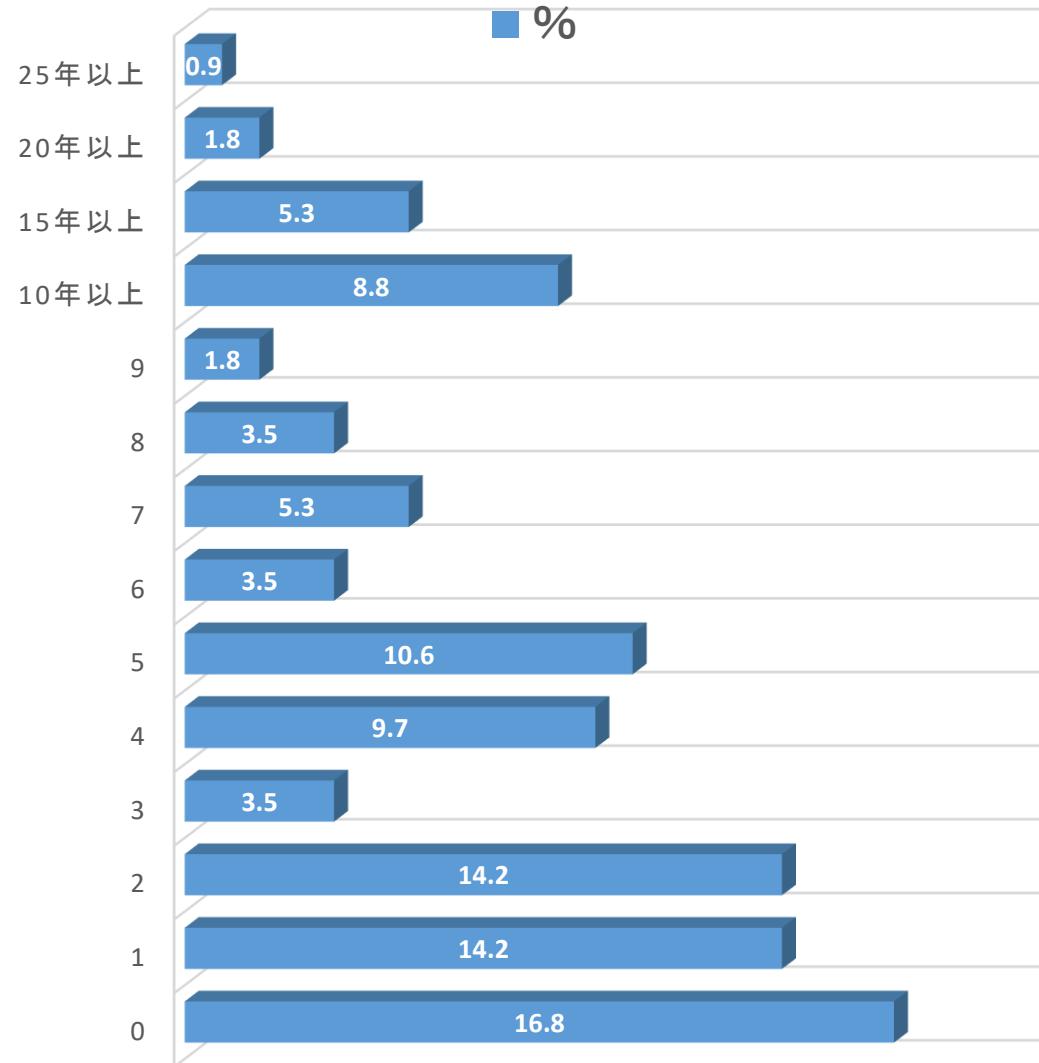
平成19年度以降 様々な施策の成果

特別支援教育の理解の広がり

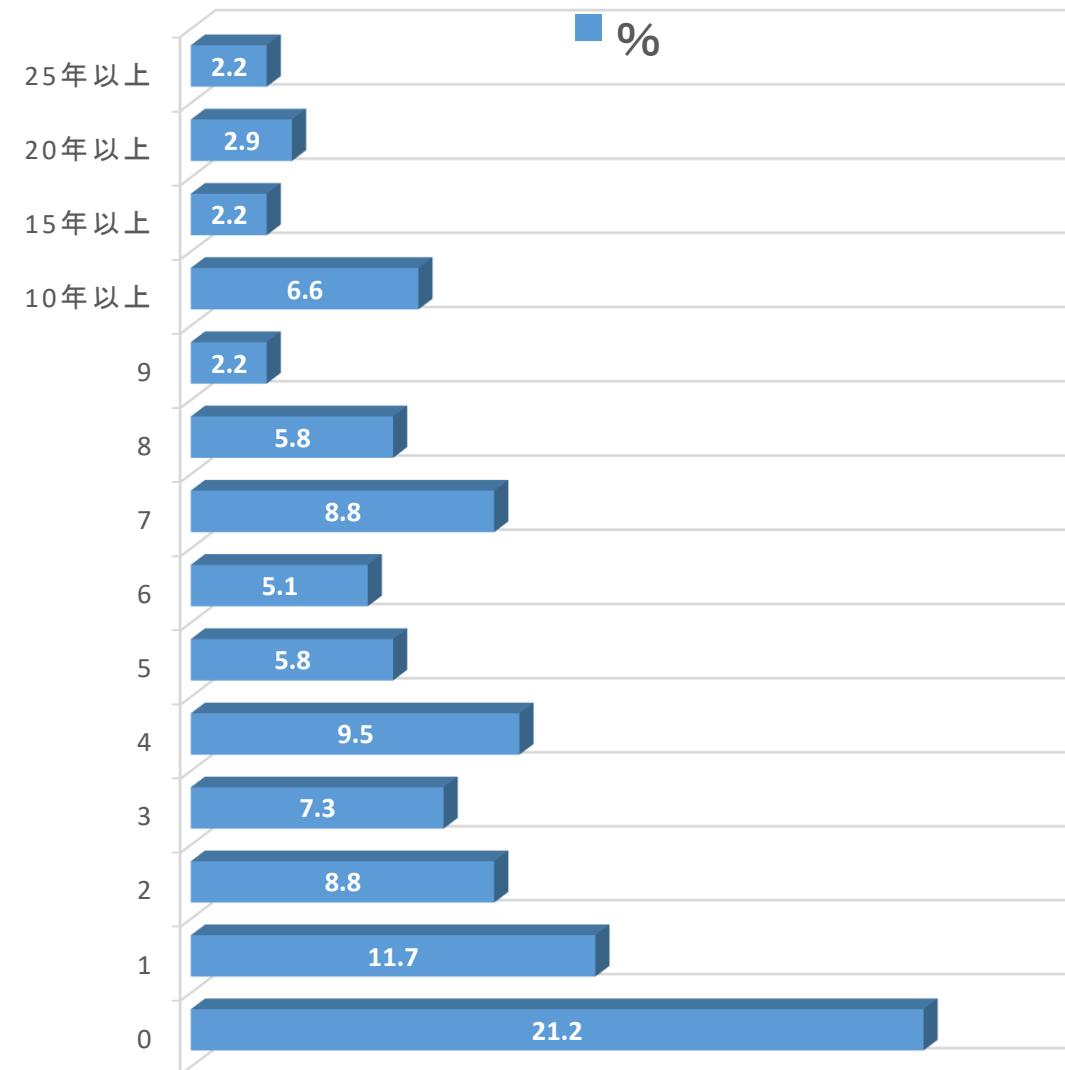
対象児童が一人でも 特別支援学級を設置

特別支援学級担任 経験年数別割合(小学校 教諭・講師)

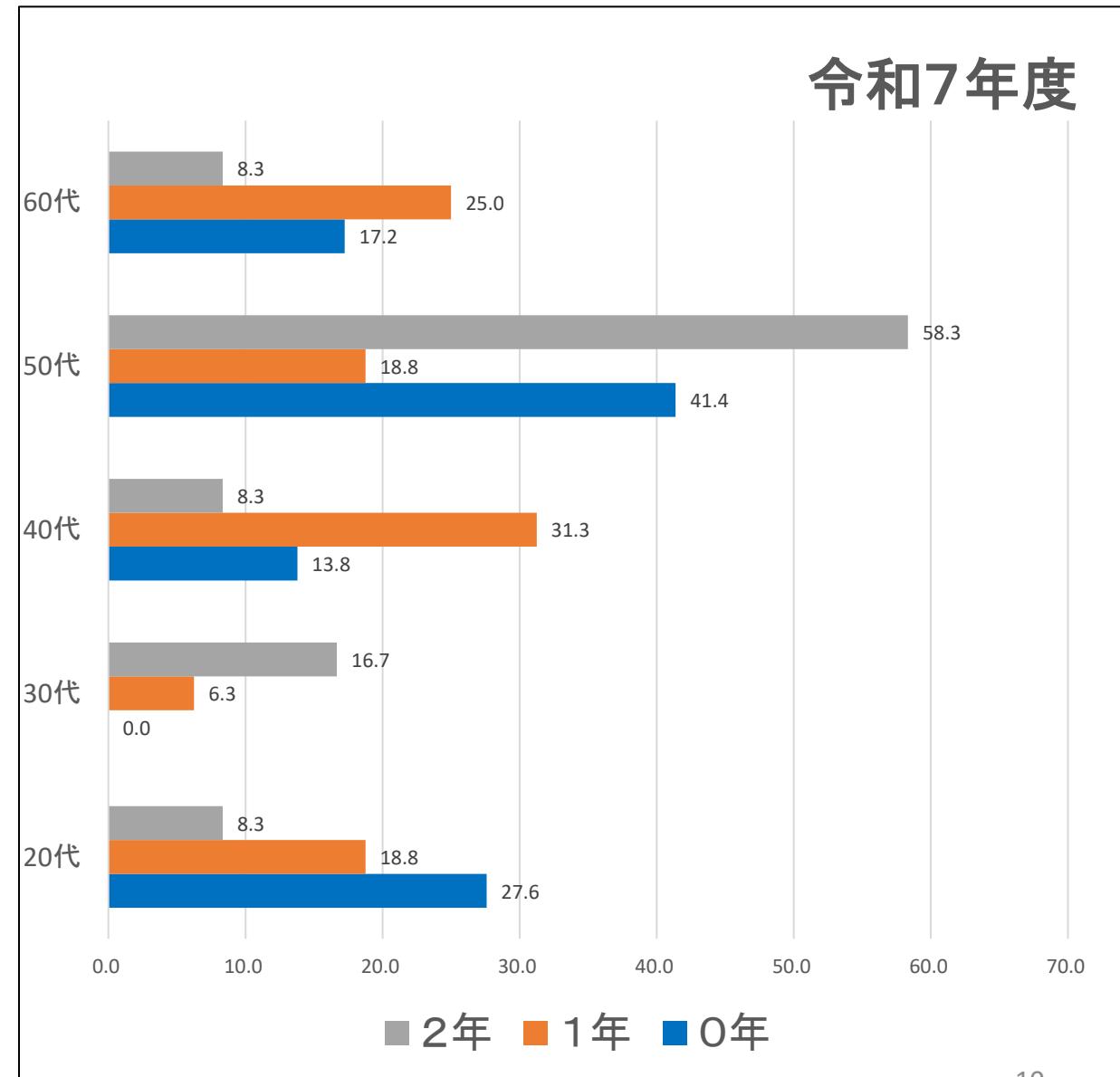
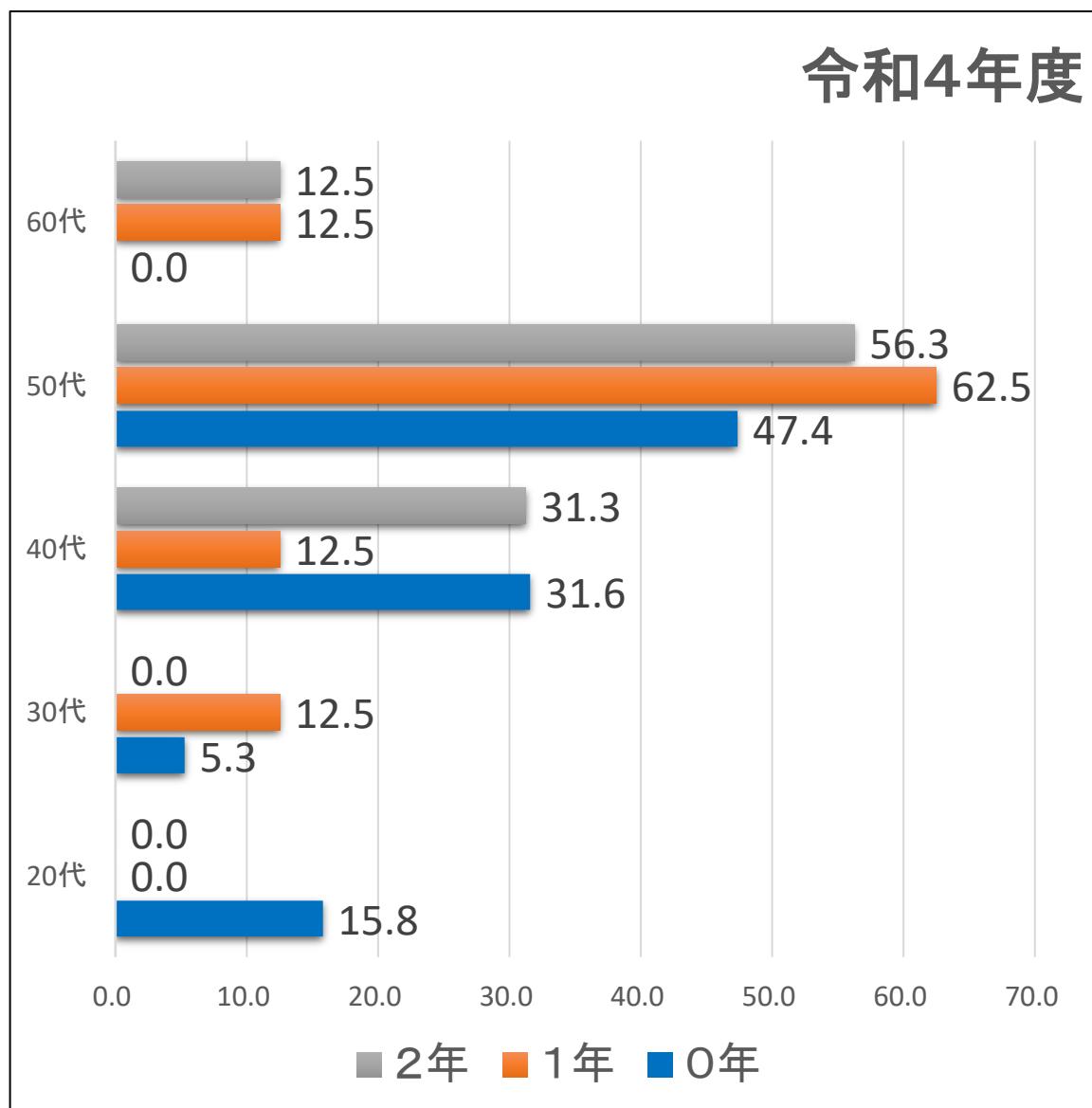
令和4年度



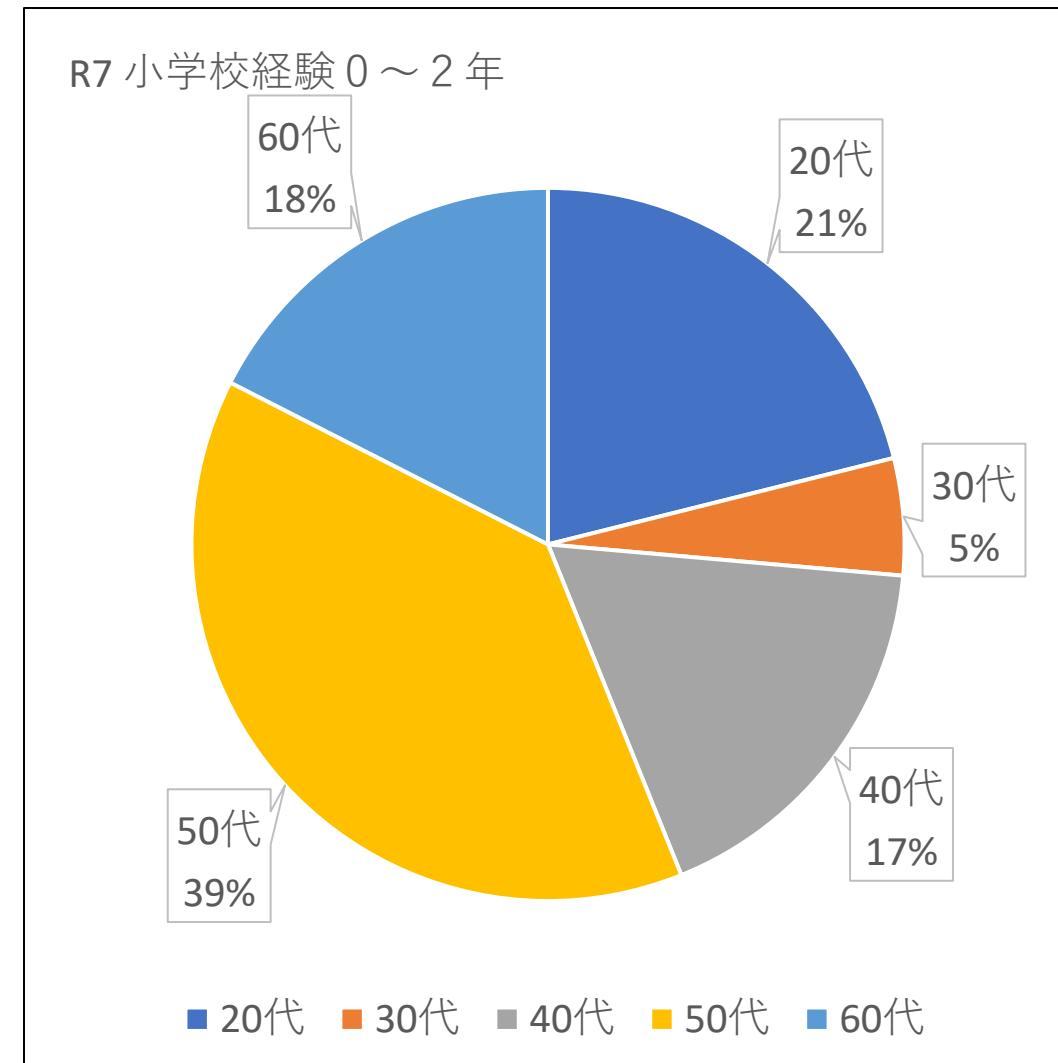
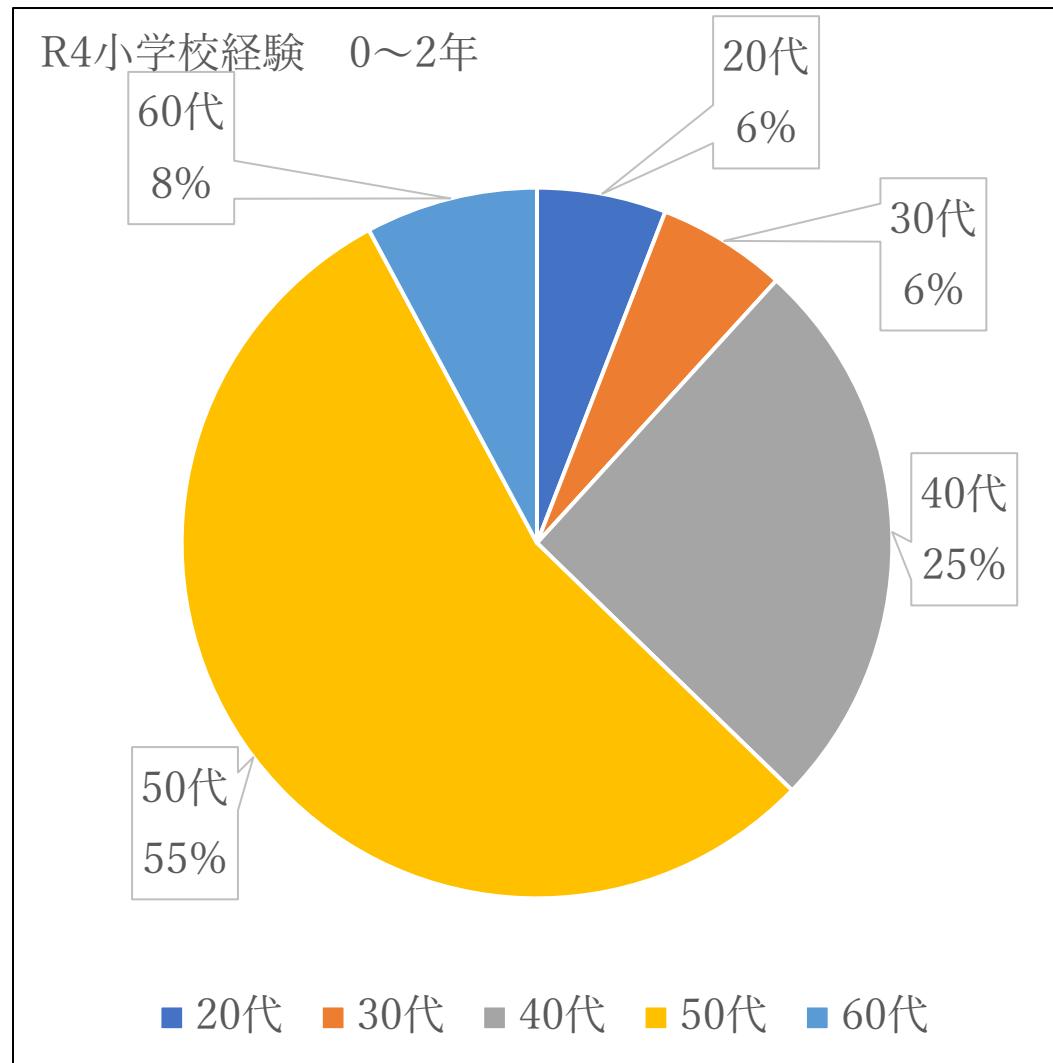
令和7年度



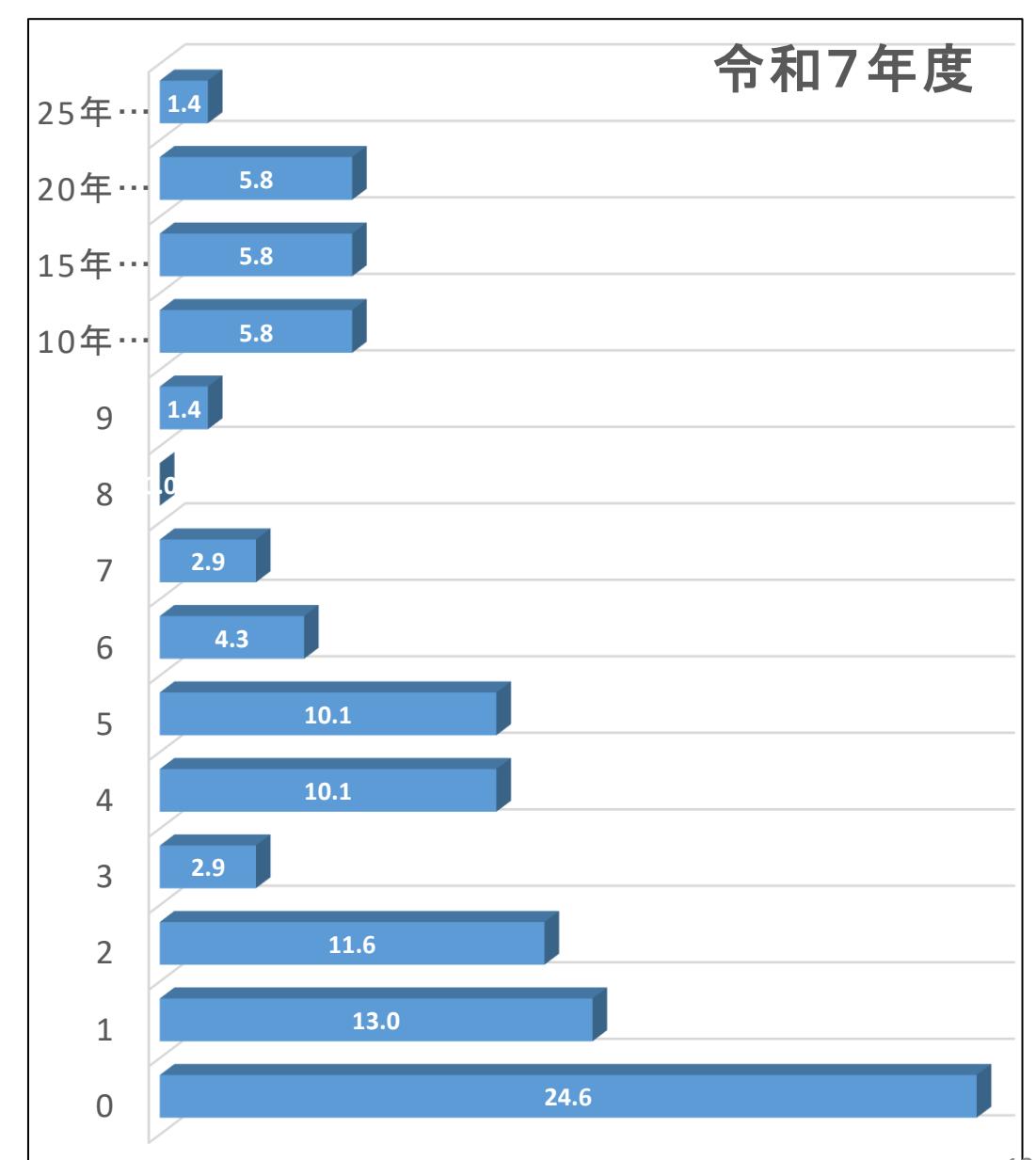
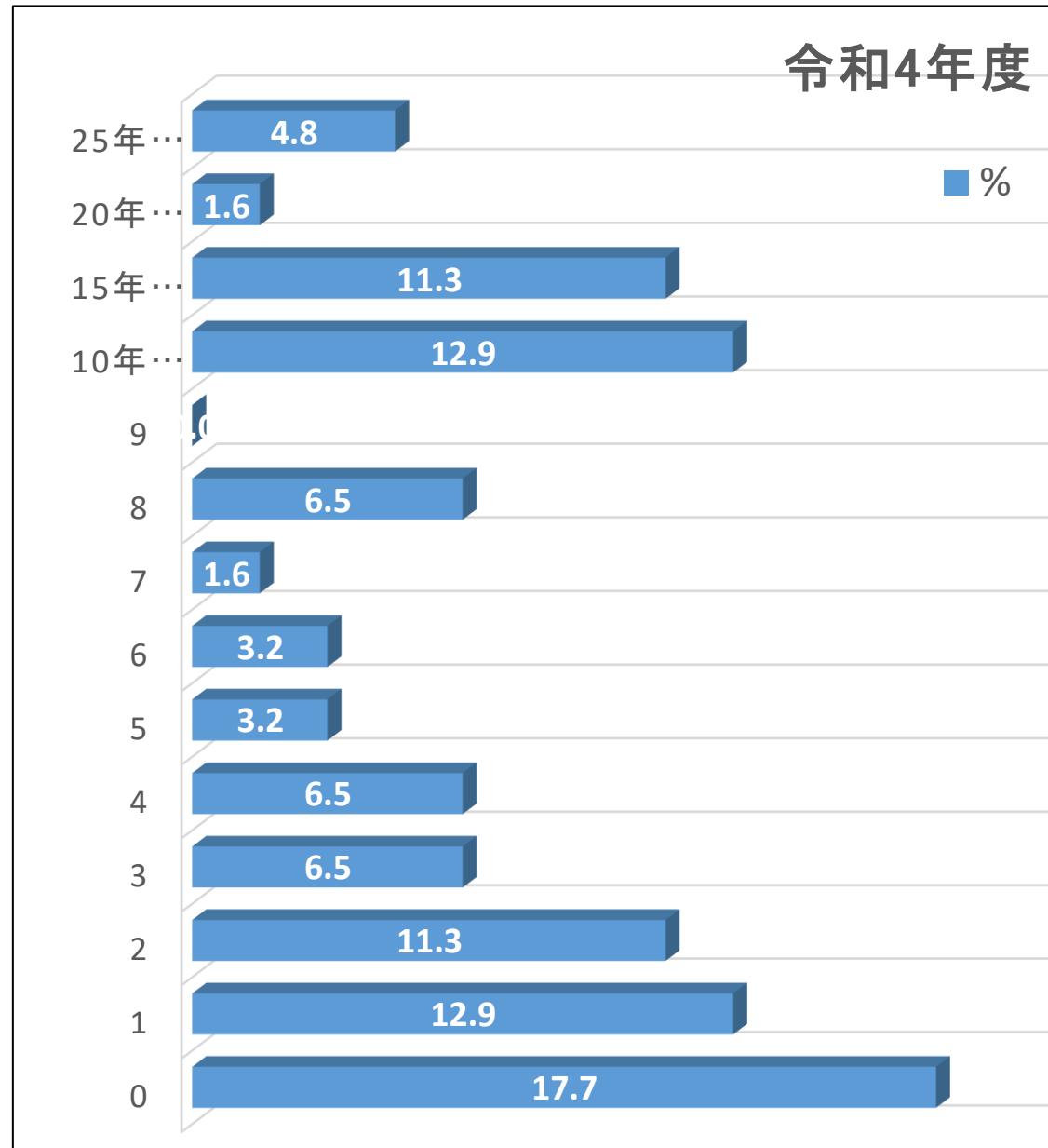
経験0～2年までの年齢割合(小学校 教諭・講師)



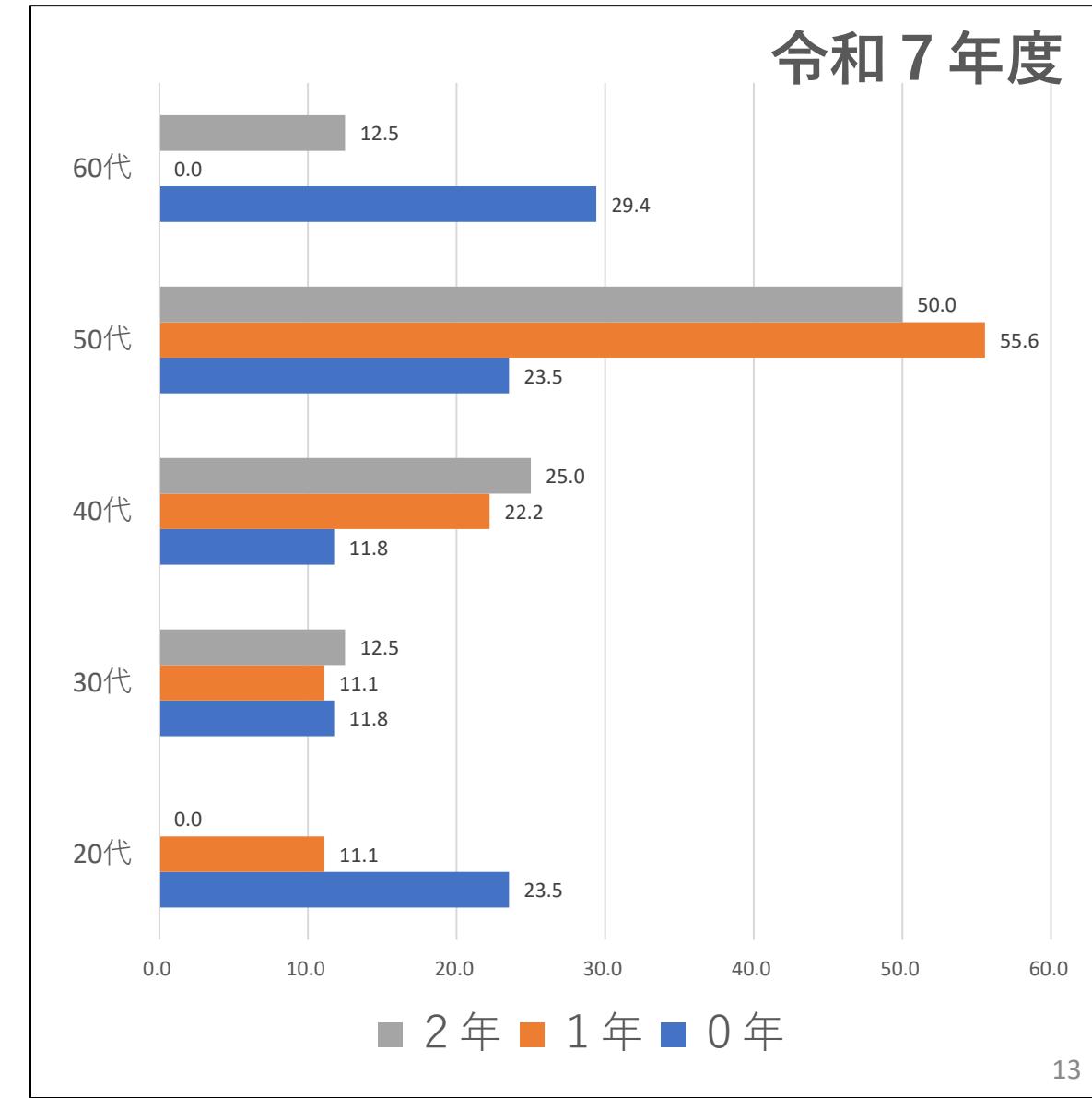
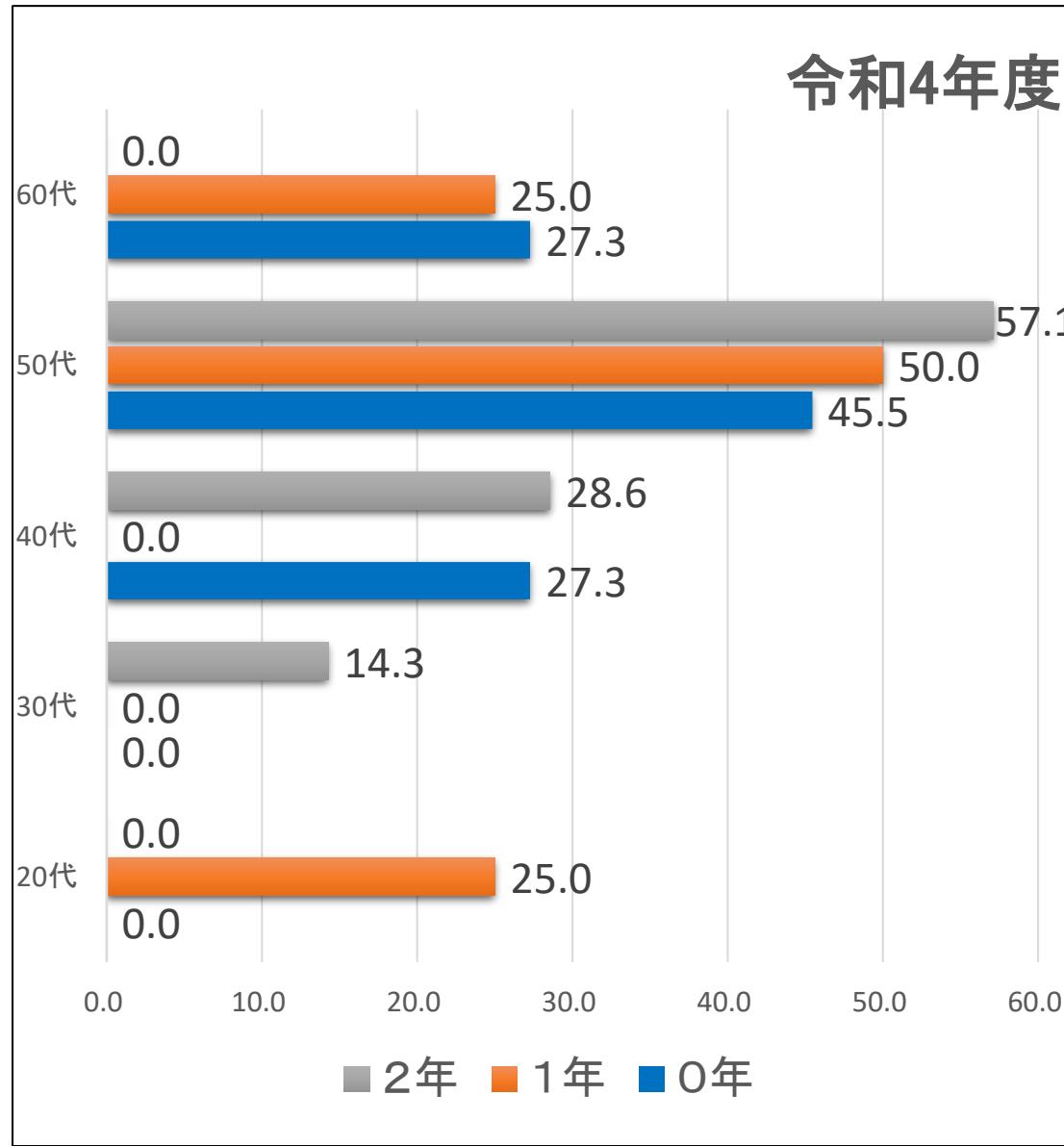
経験0～2年の年代別割合(小学校 教諭・講師)



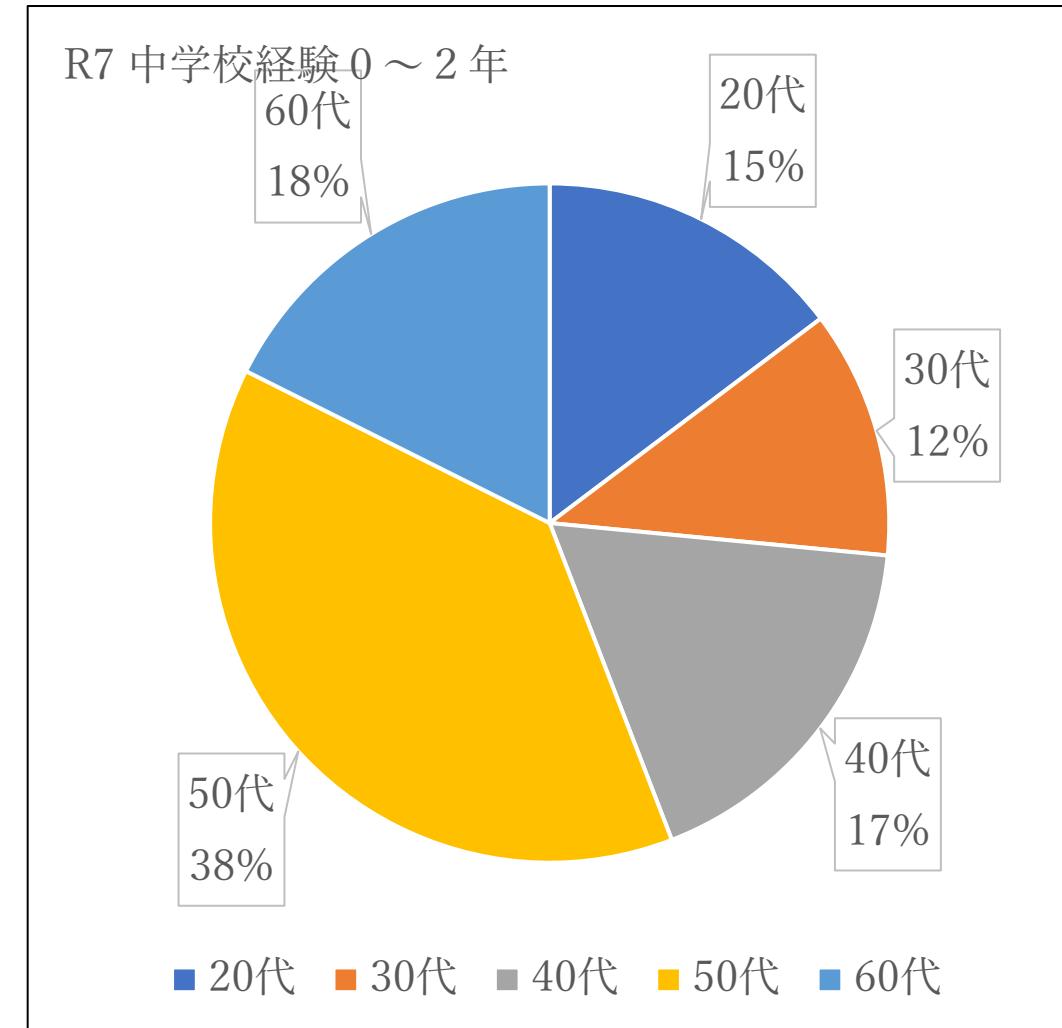
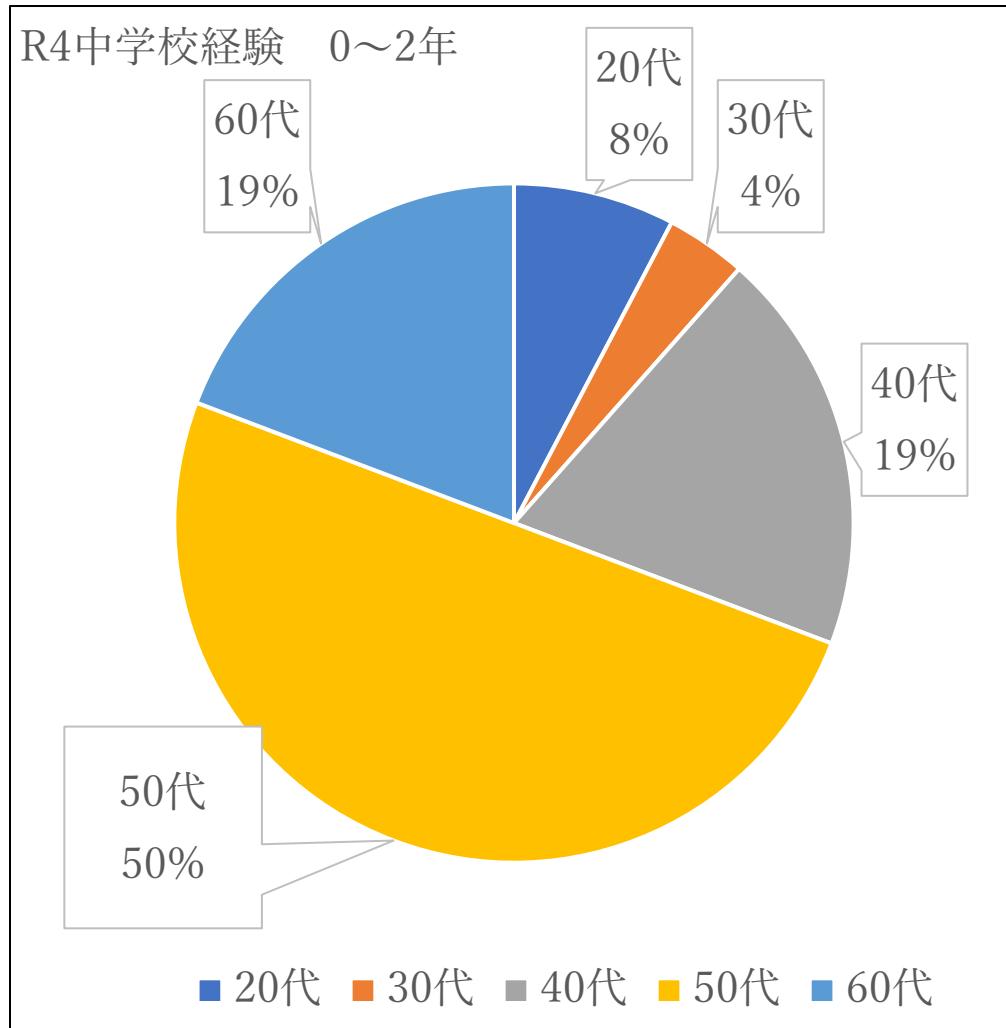
特別支援学級担任 経験年数別割合(中学校 教諭・講師)



経験0～2年までの年齢別割合(中学校 教諭・講師)



経験0～2年の年代別割合(中学校 教諭・講師)



◎児童生徒と担当教員の現状から

○ 在籍児童生徒数・学級数の増加

- ・児童生徒は減少しているのにも関わらず、特別支援学級在籍数は急増し、学級数も比例して増加

○担当教員の年齢・経験構成の変化

- ・20歳代・60歳代の増加といった年齢構成の二極化が進み、経験の浅い教員が増加

◎研修の必要性と連携・交流活動の意義

○担当教員の年齢・経験構成の変化

- ・全担当者の約半数は経験年数3年以下
- ・20歳代・60歳代の教員が増加傾向

○専門性向上に係る国、県の方向性

- ・特別支援教育を担う教師の在り方等に関する検討会議報告(R4)
- ・特別支援教育推進プラン(2024～2028)

○盛岡市における中学校区での連携・交流活動の意義

- ・身近な学校外の資源の活用
- ・地域内で知見のある教師を中心とした支援体制
- ・子どもの学習活動への実感・達成感を伴う教師自身の研修の場

- 「コーディネーター連絡会」の定期開催
- 市特研合同発表会に向けの取組
- LD等通級指導教室の連携

※ 津志田小小野寺指導教諭が核となって

○「コーディネーター連絡会」の定期開催

- ・年間開催計画（「年間の教育支援の流れ」を参照しながら）
- ・各校特別支援教育計画の交流
- ・児童生徒の情報交換
- ・中学校区内交流活動の計画
- ・特別支援関係情報（外部研修会等）の交流



○市特研合同学習発表会に向けての取組

◇昨年度は「オンライン交流」を行った
(できるところからできる範囲で)

参加する津志田小の児童が発表を披露し、
見前小児童が応援や励ましを伝えた



○市特研合同学習発表会に向けての取組



今年度は
初の3校合同での発表

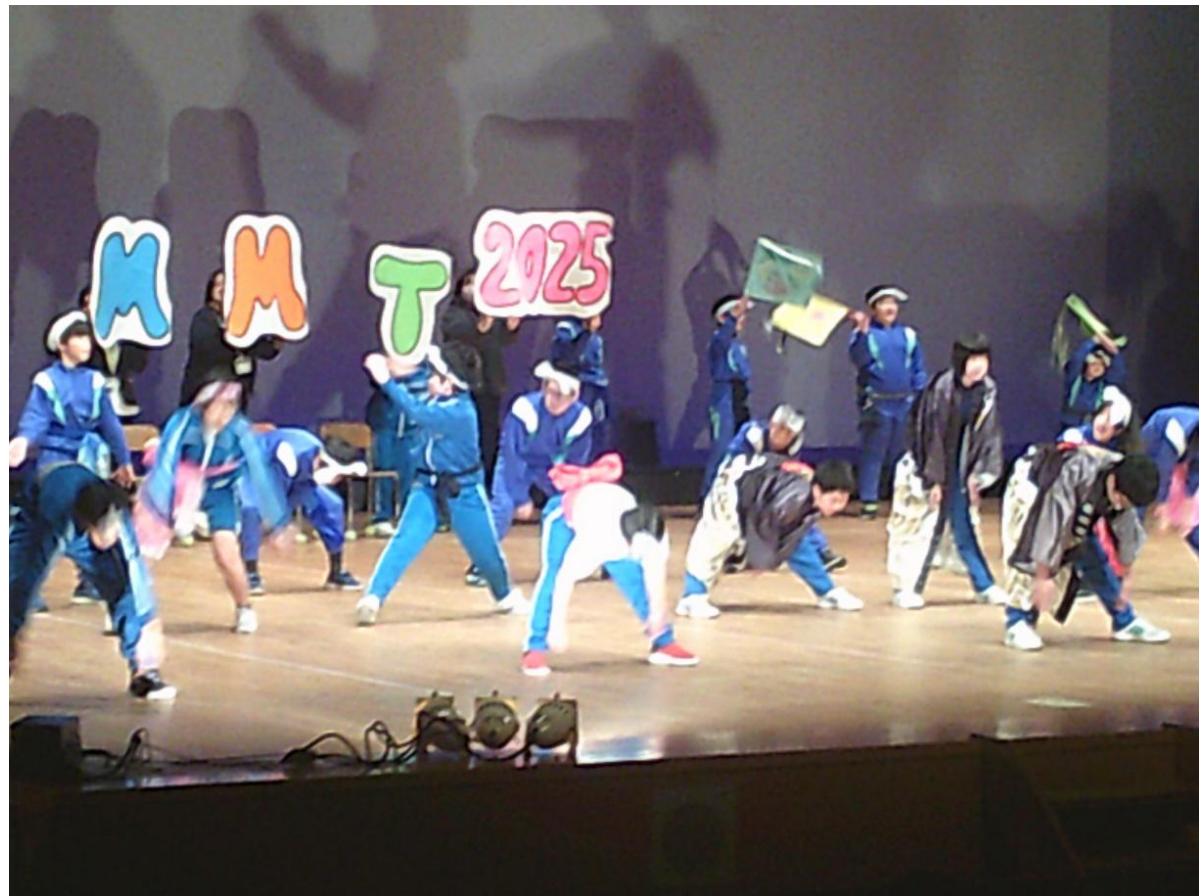


- ・練習計画立案
- ・見中ソーランの動画ファイルを
3校で共有し各校で練習
- ・合同練習会(計2回)

○市特研合同学習発表会に向けての取組

経験の浅い先生の感想

- ・子どもの自身の安心感と成長
- ・多面的な実態把握・理解
- ・他校の先生の子どもへの接し方から
- ・オンラインの活用



○市特研合同学習発表会に向けての取組



- ・近隣小学校が合同で参加を継続中
- ・本年度も、見通しを共有した詳細な打合せを実施

○「コーディネーター連絡会」※本年度から

- ・中学校も含めた交流活動の検討

⇒まずは、2月あたりの中学校進学の時期に、子ども自身が見通しをもてる交流活動から始めるのは・・

見前中・見前南中学校区(近隣中学校区との連携)

○全体構想の作成

**特別支援教育
みるみるプラン** R1

見前中・見南中校区における取り組み

岩手県特別支援教育推進プランを受け、見前・見前南地区では、地域とつながり、地域で育てる体制を整え、誰一人取り残さない教育を推進します。(2024～2028)

つなぐ **いかす** **支える**

就学から卒業までの一貫した支援の充実。

各校における指導・支援の充実。

教育環境の充実・教職員の理解の促進。

中学校
↓
小学校
↓
幼稚園・保育所

医療
福祉
行政
支援学校 等

①各中校区(拡大校区)特支Co.連絡会の実施
②各校区で統一した引継ぎ様式の活用

③通級指導教室の運営
④特別支援学級の運営
⑤相談室/学習室の運営
⑥困難事例について
⑦ケース会議の開催(随時)

通常の学級における特別支援教育の展開
①各校での取り組み
②巡回相談の活用
③諸検査の実施
④ケース会議の実施
⑤SC/SSWの活用

みる・みる会

やってみる はなしてみる あつまってみる

小・中9年間継続した支援で、子どもたちの成長を促します。
子どもたちだけでなく、先生たちもつながり合いながら学び合います。

津志田小	見前中	見前小	見前南中	見前南小	永井小
電話:	電話:	電話:	電話:	電話:	
特別支援学級(知・自情・視・病・難) 通級指導教室(言語・LD等)	特別支援学級(知・自情・病・難) 通級指導教室(LD等)	特別支援学級(知・自情)	特別支援学級(知・自情)	特別支援学級(知・自情)	特別支援学級(知・自情・難)
担当者名:	担当者名:	担当者名:	担当者名:	担当者名:	担当者名:

特別支援教育チーム専門委員 担当者名:

校区の資源を最大限活用して支援を行っていく。困難事例については、校区内で随時ケース会議を開催して検討する。

○全体構想の作成

- ・岩手県特別支援教育推進プラン（つなぐ、いかす、支える）を踏まえた、「誰一人取り残さない教育」の推進
- ・みるみるプラン
「やってみる、はなしてみる、集まってみる」

見前中・見前南中学校区(近隣中学校区との連携)

○市教研特別支援教育部会の合同開催



第3回 市教研 特別支援教育部会について

令和7年10月15日(水)

- 1 日 時 令和7年10月29日(水) 14:00~16:45
2 会 場 津志田小学校 2階会議室
※駐車場スペースに限りがありますので、各校乗り合わせでご参加下さい。
※上履きをご持参下さい。
3 会 員 見前中校区 24名(見前中5 見前小4 津志田小15)
見南中校区 14名(見南中2 永井小8 見前南小4)
4 内 容 都南地区(見中&見南中)における特別支援教育の推進体制の構築

	見中校区(特支)	見南中校区(特支)	通常・通級
13:55	受付・集合		
14:00	開会(全体進行 見前中 今野先生)		
14:05~14:35	講義「子どもを中心とした教育活動の展開」 盛岡市立津志田小学校 校長 川村憲弘		
14:40~15:00	各校区の状況～特支コ連絡会の内容について～ 進行 津志田小 小野寺 ①見南中校区の様子(佐野先生から) ②見中校区(菅原先生から)		
15:05~15:55	研修「発達障害の薬・治療・教育支援」 盛岡市立津志田小学校 指導教諭 小野寺佳織		
16:00~16:45	合同学習発表会(今野) 練習計画について	合同学習発表会(佐野) 練習計画について ※見南中の先生も加わり校区の取り組みを共有して下さいませ	ケース相談(小野寺)
16:45	各グループごとに終了・解散		

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

3 本校の特別支援学級の主な実践・取組

(4) 他校との関わり

◎ 「チーム松ぼっくり」

- ・ 県教委「いわて特別支援教育推進プラン」に係る地域の特別支援教育を活用した専門性の向上について、平成27年度に松園地区小中学校が指定を受けて始まった事業(最終的には、松園小・東松園小・北松園小・松園中・北松園中の5校での取組となった)
- ・ 主な活動
 - 市内合同運動会の応援練習、市内合同発表会への合同参加、プール施設「ゆびあす」における合同プール学習、お茶会体験 小学校3校合同クリスマス会、授業参観及び授業研究会、他
- ※ コロナ禍により4年間交流停止→復活が困難



「R6岩手県特別支援教育推進に関する懇談会」で
松園小西館校長が発表したスライドの一部

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

- 復活に向けた働きかけ
- 情報発信
- 市特研合同運動会に向けでの取組
- 授業交流会
- 校内研への参加

松園中・北松園中学校校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○復活に向けた働きかけ

校長同士の共通理解

松園小西館校長が、中学校区全校長に、活動の歴史や意義を伝え、校長同士の共通理解を図った。

復活への思い

地域の連携・交流活動を通じて専門性を高めてきた松園小藤原教諭が核となつて積極的に働きかけてきた。

「できることから」「できる範囲で」「参加できる学校が」

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○顔合わせ会「なかよくしようね会」
(総勢70名の児童生徒 ※6年前は50名)



松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○情報発信

〈松園地区小・中学校特別支援教育通信〉 第1号 令和7年5月8日(木)

チームまつぼっくり

葉桜の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、先日は、チームまつぼっくり「仲良くしようねの会」に参加いただきありがとうございました。今年度の活動について話し合われたこと、また、市教研特別支援部会や、担当者会議等でお会いした際に、確認したことについてお知らせいたします。

(1) 合同運動会の応援練習

- ・場所—松園中学校（松園中学校・北松園中学校・松園小学校参加）
- ・日時—5月27日（火）・28日（水）・30日（金）いずれかの2時間目でいかがでしょうか？（後で、日程の調整をしたいと思います。）

(2) 授業参観・研究会

※参加を希望される場合は各学校の特別支援担当の先生までご連絡願います。

- ・松園小学校—6月19日（木）3時間目（10：25～11：10）自立活動
- ・東松園小学校—8月21日（木）9：30～11：30 研究会
- ・東松園小学校—11月27日（木）研究授業
- ・北松園小学校—5月中旬（松園小藤原がおじゃまいたします。）

(3) 授業交流会

- ・場所—東松園小学校（松園小学校児童・教師参加）
- ・日時—6月中旬（後日日程調整）

※お知らせ※

- ・「仲良くしようねの会」の写真がUSBに入っています。どうぞご覧ください。
- ・児童生徒、担任の名簿も同封しました。必要に応じてお使いください。（お取り扱いにはご注意願います。）

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○市特研合同運動会に向けての取組



松園中、北松園中、松園小合同
での応援練習

各学校で役割を分担して進める
(練習会は松園中の生徒が中心
になって進めた)

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○授業交流会



東松園小と松園小の授業交流会

松園小児童が東松園小学校に移動
(徒歩15分)して実施

松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○授業交流会

東松園小学校で継続して行つ
てきているリラックス体操
「ひがしこエクササイズ」

自己紹介→ひがしこエクサ
サイズ→全員でゲーム(なんで
もバスケット)→感想発表



松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○校内研への参加

【松園小学校】

自立活動「こんなときどうする？(SOSの出し方)」



【東松園小学校】

生活単元学習「ありがとうを伝えよう」

研究会「後方視的対話」を用いた振り返り ※岩手大学連携



松園中・北松園中学校区(松園中、北松園中、松園小、東松園小、北松園小) ※チームまつぼっくり

○経験の浅い先生からの感想

- ・初めて特別支援学級担任となり、わからないことが多く、日々指導に悩むことがある。
- ・チームまつぼっくりの活動を通して、生徒たちの表情がとても柔らかだったのが印象的。普段だったら素直にできないことでも、しっかりと小学生のために面倒を見ている姿があった。
- ・お兄さんお姉さんらしく振舞っているのが印象的。小学校時代の先生に会えたことが心の安定につながった生徒もいた。
- ・自分自身の生徒理解につながっているように感じる。生徒自身にとっても貴重な機会だと思う。
- ・中学校区内の校内研や研修の案内は来ているが、参加する余裕がない。ただ、今は目の前のこと精いっぱいだが、今後、まつぼっくりの先生方等と積極的にかかわる中で指導力を高めていきたい。

○ゲストティチャーを招聘した小中合同授業

- ・継続的に実施してきている
- ・今年度はそば打ちと組子細工



○コーディネーター同士の連携(Microsoft Teams)

- ・小中合同授業の振り返りと次年度構想
- ・16:10～16:34の24分間の会議だったが、負担なくねらいが達成



◎市特研の活動について

令和6年度の活動実績(合同活動のみ)

○合同運動会(6月) 小学校 12校 中学校 7校 参加児童生徒数 279名

○合同作品展(11月) 小学校 33校 中学校 14校 施設 2 来場者数 934名

○合同学習発表会(11月) 小学校 27校 中学校 10校 出場児童生徒数 532名

◎実践・交流活動の効果

【児童生徒にとって】

- ・たくさんの人との出会いが仲間づくりに
- ・連帯感や達成感を味わう機会の広がり
- ・コミュニケーションの基礎を高める場
- ・小学生にとっては、中学生の先輩と接する学びの機会と安心感
- ・中学生にとっては、小学生との交流によるリーダーシップや思いやりの心の醸成

◎実践・交流活動の効果

【担当教員にとって】

- ・子どもの9年間の成長を実感できる機会
- ・普段見られない子どもの様子から、多面的な事態把握や理解につながる
- ・より複数の目で子どもたちを観る機会となり、より確かな実態把握につながる
- ・児童生徒への関わり方や指導法を見たり聞いたりできる貴重な場
- ・校内における特別支援教育の理解・啓発
- ・校区資源をお互いに活用することで選択肢が増え、相互互助的な支援体制が形成(新設学級の見学連携等)される

◎連携・交流活動を進める際の留意点

- 連携・交流活動の出発点はコーディネーター同士の連携
⇒年度当初の連絡会の場を生かす
- 「できることから」「できる範囲で」「参加できる学校が」
- 交流活動だけでなく、日常の連絡調整においても、オンラインを検討(慣れさえすれば活用が広がる)
- 校長間の共通理解と核となる先生(経験年数の長い先生 等)のリーダーシップ
- 担当者を出張に出しやすくする学校体制の構築
- 市特研行事参加は、様々な工夫で負担軽減を(会場までの送迎は各家庭で、合同作品展見学の平日活用 等)

◎中学校区単位での段階的モデル

情報交換の定例化

年度当初のCo会議

核となる教員

チームズの活用

他校の校内研・合同研修への参加

情報発信

校長間の共通理解と校内体制

児童生徒間の交流拡充

市特研行事への参加

チームズの活用

※ 段階的な見通しをもち、
「できることから」「できる範囲で」

○まとめ

1 研究の成果

- 盛岡市内の特別支援学級の現状(在籍児童生徒数、特別支援学級設置状況、担任の経験・年齢)を過去のデータと比較しながら現状を明確に把握することができた。
- 連携・交流活動の取組(新規、復活、特徴的な実践)から、連携・交流活動の効果と取組の視点をまとめることができた。
- 中学校区単位での連携・交流活動の効果を踏まえ、連携・交流活動や教員研修の継続的な展開を図る段階的推進モデルを構築できた。

◎まとめ

2 実践の課題を踏まえた今後の方向性

- 教員を出張や交流活動に送り出しやすい校内体制の整備が十分とは言えない状況なので、管理職との連携を深め、校内での理解促進と業務調整の工夫を図ることが求められる。
- ICT活用(Teams等)への慣れが進んでおらず、連絡調整や研修参加に課題があるので、研修や実践を通じてICT活用のハードルを下げ、日常的な連携手段として定着させていくことが期待される。
- 担当者が変わっても中学校区での連携・交流活動を継続できる推進体制を構築(全体構想の作成 等)することが重要である。
- 今後も20代・60代の未経験者が多い状況が続くと予想され、年齢経験に応じた支援・研修設計が今後の鍵となる。

ご清聴ありがとうございました。

子どもたちの健やかな成長を **支援と伴走** で 支えていけたら
いいですね。

今年も よろしくお願ひいたします。

令和8年1月6日

